

親善関係促進目指す 富山日豪協会が設立

富山日豪協会が設立

日本、オーストラリア両国の年の船の来航などを基に民間レベルで設立された同協会は、文

日豪親善関係促進を目指す富山日豪協会の設立総会は二十日午後四時から富山電ビルで開かれた。

交換留学生や十五年の県青

オーストラリア物産展が今年中に開催して行くこととしている。

総会では、会則、役員選任案を原案通り承認、会長に就任した原谷敬吾氏が「両国は共に環太平洋地域での先進国として経済分野では交流は進んできているが、国民レベルではまだまだという感じが、県内各層にわたる多数の方に同調していただき、今後は協会の目的達成のため最大の努力を傾けていきたいと思います」と挨拶を述べた。

会費は、同日までの入会受け付けで、個人、法人合わせて三百八十人となった。

総会後に開かれた定款審議会に、日豪日オーストラリア大使、シェームス・アムソル卿も出席、両国国家演説のあと原谷会長のあいさつに対しアムソル大使は「公の機関としてではなく留学生、経済人の交流を通して自然的に協会が設立されたのは喜ばしいことだ。オーストラリアからの資源供給、日本からの資本投資など両国は互いに補い合う関係にあり、このような両国の中での協会の存在意義は大きい。今後一層両国の交流が深まることを願っている」とメッセージを述べた。

承認された協会役員は次のとおり。

▽名誉顧問 中沖豊、吉田健三▽顧問 吉田久松、橋本清次、竹平政太郎▽会長 原谷敬吾▽副会長 新田朝治朗、沖外夫、久保田照雄、森本秀夫、大和田国男、金尾力松▽参事 高須重雄、村本岸、金田幸二、竹平米次、深山栄、横山良一、中田保、榎崎祐吉▽専務理事 稲垣英一▽理事 高木正明、橋本太郎、米原重、多田博一、奥井弘、荒井公夫、稲葉英一、千田剛行、津島朝朗、大塚和歌、長谷川貞男、西田東作、金野世士夫▽監事 金藤伊平、前川弘義

「若者の交流深めたい」 若者 県庁など表敬訪問

若者 県庁など表敬訪問

富山日豪協会設立総会出席のため来県したサー・シェームス・アムソル駐日オーストラリア大使は二十日、県庁を表敬訪問、長島副知事と歓談した。

長島副知事は「富山に青年の船を派遣した際、いろいろお世話になった。県内から進出している企業もあり、一層の交流を深めたい」と歓迎のあいさつ。

アムソル大使は「かねて富山県のごとくは聞いていた。一度訪ねたいと思っていたが、日豪協

会創立を機会に招待を受け感謝のため来県したサー・シェームス・アムソル大使は「今後とも若い人たちの交流をもっと経済・貿易などの面でも両国の連携を深めたい」と述べた。

同大使は「この富山県表敬訪問、富山市の電気を止めて開かれた日豪協会総会に臨んだ。二十一日、県立近代美術館を員学、高岡市役所を表敬訪問のあと同日午後、小松空港から帰京する。

(1982年8月21日 北日本新聞)

第1回交換留学生が来富 豪へは浜四津さん(富山)



富山日豪協会(稲垣英一専務理事)は女子高校生との交換留学制度をスタートさせた。第一回交換留学生としてオーストラリア・ヒクトリア州マールフォード高のジョアンヌ・リー・ホワードさん(二)が二十五日に来富、一年間の滞在を富山女子高に通っている。四月には富山高一年の浜四津敬哉さん(一)が富山市北新町にオーストラリアに向かう。五十九年の両青年の親がさかかけとなり、同開

日豪交換留学生の浜四津さん(左)とホワードさん

北日本新聞社

浜四津さん(一)は、ホワードさん(二)が検査されてきたが、ホワードさんの方法などがますます実現した。

ホワードさんはバイクライディングが好きで、富山ではバイクは乗れないが、スキーや水泳などのスポーツを楽しみたい。日本の美しい自然をたくさん見たいと目を輝かしている。浜四津さんは応募した約六人の中から選ばれた。日本以外の土地で生活したかった。日本のごとくオーストラリアの人に知ってほしいと話した。両親の皆さんは「娘は昔から外国へ行きがっついてきた。授産の国際化にも対応できる人間になってくれ」と期待をかけた。

同協会は毎年同制度を続けていく予定。留学生受け入れれるホストファミリーも募集している。問い合わせは同協会事務局 0764-2335209へ。

(1987年1月31日 北日本新聞)



豪留学生を受け入れ

富山日豪ニュー ジーランド協 砺波高で1年間

オーストラリアと高校生
の交換留学事業を続けてい
る富山日豪ニュージーラン
ド協会は今年、ニューサウ
スウェルズ州のエマ・ウオ
ーカーさん(16)を受け入れ
た。同協会の林和夫専務理
事が三十日、ウオーカーさ
んとともに北日本新聞社を
訪れた。

留学生の受け入れは今回
が五回目。ウオーカーさん
は今年来日、砺波高で一年
間学ぶ。「日本語と日本文
化を学び、帰国後は大学で
広告や貿易の勉強をし、将
来は貿易関係の仕事に就き
たい」と話した。

(1997年1月31日 北日本新聞)



富山日豪NZ協会

3国の友好と発展誓う

大使ら出席し20周年式典

富山日豪ニュージーラ
ンド協会(森政雄会長)は
二十七日、富山市の名
鉄トヤマホテルで創立
二十周年記念式典を開き、
森政雄会長が「留学生
の交換などを通じて交流
を深めてきた。富山、オ
ーストラリア、ニュージ
ーランドのつながりが三
十年、五十年さらに強
まることを期待する」と
あいさつした。

富山日豪ニュージーランド協会の創立20周年を祝い、スピーチするフィリップ・ギブソン駐日ニュージーランド大使＝富山市の名鉄トヤマホテル

森政雄会長が「留学生の交換などを通じて交流を深めてきた。富山、オーストラリア、ニュージーランドのつながりが三十年、五十年さらに強まることを期待する」とあいさつした。

来賓のフィリップ・ギブソン駐日ニュージーランド大使が「日本とは経済、政治のつながりがあるが、一番大切なのは人と人との結びつき」と英語でスピーチ。グレック・ストーリー、在日オーストラリア大使館公使参事官が「富山の友好関係を長く続けていきたい」と流ちょうな日本語であいさつ。大永副知事も祝辞を述べた。

ストーリー参事官の記念講演に続いて、パーティーもあり、料理を語らなから楽しく懇談した。

(2002年9月28日 北日本新聞)



日・豪・NZの一層の交流を

富山日豪ニュージーランド協会(会長・森政雄)は8日、富山市桜橋通りの富山電気ビルで総会を開き、本年度の事業計画を承認したほか、役員改選で森会長を再任した。任期は2年。

会員や交換留学生ら約50人が出席。森会長が「3国の一層の交流を図りたい」とあいさつし、在日オーストラリア大使館のキラン・チェスト

ナット等書記官と在日ニュージーランド大使館のレベッカ・ケムズレー等書記官が祝辞を述べた。

本年度は、クリスマスパーティーやバスハイク・パーベキュー大会を開くほか、全国各地の日豪ニュージーランド協会と交流する。

(2010年9月9日 北日本新聞)



日本語などで自己紹介する出席者

クリスマス祝い交流

富山日豪ニュージールランド協会の森政雄会長は23日、富山市奥田新町のポルファートとまでクリスマスパーティーを開き、世界各国の参加者が交流を深めた。

県内の学校の留学生や企業に勤める外国人との交流の場として毎年開催。オーストラリアやニュージーランドのほか、米国やカナダ、英国などの出身の外国人も協会員ら計約130人が参加した。

パーティーはキンドルサーブिसで始まり、各国の出席者が流ちょうな日本語や母国語で自己紹介した。

今年開かれた「フォレックとやま2010」のマスクット

留學生ら130人参加

富山日豪ニュージールランド協会「きとぎと君」を招いて一緒に体験したほか、マジックショーやプレゼンテーション交換もあり、参加者は歓談しながら楽しいひとときを過ごした。

(2010年12月24日 北日本新聞)

カウラでの慰霊祭へ

富山日豪ニュージールランド協会のメンバーが20日、創立30周年を記念したオーストラリア視察に出発した。戦中起きた日本人捕虜集団脱走事件の死者が埋葬されている南東部の町カウラを訪ね、慰霊祭に出席する。6日間の日程でシドニー、メルボルンも回り、草の根交流を進める。

会長の新田八朗日本海ガス社長、顧問の森政雄リードケミカル社長、林和夫朝日建設社長、黒川伸一黒川製作所社長ら15人が訪問する。

カウラでは1944年8月、連合軍の捕虜収容所から500人を超える日本兵が脱走し、230人が死にすする事件が起きた。捕虜となることを恥とした旧軍の戦隊員が招いた悲劇で、死者は日本人墓地に埋葬された。

一行は慰霊祭に参加するほか、長く日本人墓地を管理し、現地の日本庭園の整備にも尽力したドン・キアラさんと懇談する。シドニーでは、オーストラリア側の交流団体、全国豪日協会連盟のマクリン・トック会長による交流パーティーを予定。

(2012年9月21日 北日本新聞)

富山日豪NZ協会 地震救援金を預託

富山日豪ニュージールランド協会(森政雄会長)は28日、ニュージーランド地震の被災者への救援金を北日本新聞社に預託した。

森会長が北日本新聞社を訪れ、河合社長に救援金10万円を渡した。森会長は、クライストチャーチ市は治安がよく、やさしい人が多い街。大きな被害が出たことを残念に思っている。救援金が少しでも被災者やその家族の助けになればいいと話した。稲垣英一副会長、林和夫専務理事、事務局

の田村美幸さんが同行した。救援金は協会の約120人から集めた。同協会は日本、オーストラリア、ニュージーランドの友好親善を旨し、1982年に設立。留学生の派遣や受け入れ支援のほか、クリスマスパーティーやバーベキュー大会などの交流イベントを開いている。



河合社長(左)に救援金を渡す富山日豪ニュージールランド協会の森会長(右)と北日本新聞社

(2011年3月1日 北日本新聞)

富山日豪NZ協会 30年の節目祝い

富山日豪ニュージールランド協会の創立30周年記念式典・記念パーティーは20日、富山市の名称トヤマホテルで開かれ、会員ら約70人が節目を祝った。

式典で新田八朗会長が、両



振替北日本新聞社長(左)の発言で乾杯する記念パーティーの出席者。右は新田八朗会長

国と富山の友好関係がより強固になるよう、引き続き努力していきたい」とあいさつ。

ブルース・ミラー駐日オーストラリア大使とマック・シンクレア駐日ニュージーランド大使が祝辞、夏野真規光・地域振興局長と森富山市長、内藤明人全国日豪協会連合会・富山日本ニュージールランド協会連合会長がそれぞれ祝いの言葉を述べた。

同協会が設ける交換留学プログラムで、現在は米国・ノースインディア大学で政治学助教を務める浜田津和枝さん(富山出身)が自身の体験を語った。

パーティーは振替北日本新聞社長の発言で乾杯し、和やかに歓談した。

式典とパーティーに先立ち、総会が開かれ、任期満了に伴う役員改選で森政雄氏に代わる新会長に新田氏を選んだ。

(2012年8月21日 北日本新聞)

日本の戦没者追悼

創立30周年を記念し、オーストラリアを訪問している富山日豪ニュージールランド協会のメンバーが23日、多くの日本兵が埋葬されている南東部の町カウラを訪ね、追悼法要に出席した。日豪双方の戦没者の墓前で手を合わせた。カウラでは1944(昭和19)年、捕虜収容所から500人以上の日本兵が脱走し、21日には、長く現地の日本人墓地を管理し、多くの日本人の感謝を集めるカウラ豪日協会、ドン・キアラさんと懇談した。

一行の15人は26日まで同国に滞在し、シドニーやメルボルンも回る。



日本人の戦没者を慰霊するメンバー(左)カウラ

(2012年9月24日 北日本新聞)